

令和3年度 第3回  
新宿区景観計画検討小委員会議事録

令和3年7月6日

新宿区都市計画部景観・まちづくり課

## 令和3年度第3回新宿区景観計画検討小委員会

開催年月日・令和3年7月6日

出席した委員

**中島直人、篠沢健太、坂井文、伊藤香織**

議事日程

議題1. 新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ今後の進め方について

議題2. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン構成改定（案）について

議題3. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン改定項目における検討方針  
（案）について

議題4. その他

議事のとてまつ

午前10時02分開会

**○事務局（景観・まちづくり課）** それでは、皆さんおそろいになりましたので、本年度3回目の景観計画検討小委員会を開催させていただければと思います。

事前に資料を送付させていただいていますが、画面共有でも進めさせていただきたいと思えます。

それでは、**中島先生**、司会進行をお願いしてよろしいでしょうか。

**○中島委員長** では、第3回の景観計画検討小委員会を開催したいと思います。本日は大きな議題が3つございます。

議題1. 新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ今後の進め方について

**○中島委員長** では、早速ですけれども、新宿区景観まちづくり計画案等改定ワーキンググループ今後の進め方についてということで、事務局から説明をお願いしますでしょうか。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** 八千代エンジニアリングです。新宿区景観まちづくり計画案等改定ワーキンググループに関する資料について私から説明させていただきます。

資料1ですけれども、まず7月末に予定されておりますキックオフミーティングのプログラムの内容について先生方にご意見いただきたいと考えております。それから、キックオフミーティングまでのスケジュールの確認、中間ミーティングと最終報告会の内容の方向性についてもお話しできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、各ミーティングの開催時期と目的を資料1の冒頭に書かせていただいております。

開催方法につきましては、コロナウイルスの関係がございますので、基本的には先日の参加者説明会と同様、Zoomを用いたオンライン形式の開催を想定しております。

ここから、キックオフミーティングについて検討している内容を説明させていただきます。

キックオフミーティングは、7月中に学生さんに行っていただく事前調査の進捗状況を報告する機会であるとともに、チームと先生方のコミュニケーションの機会ですとか、ほかのチームの状況を知る機会として、内容を検討しているところです。

概要といたしましては、2時間のミーティングという時間の制約もあるということで、7月26日の午後5時までに、キックオフミーティングで報告してもらう資料を事前に提出してもらうようにいたしまして、事前に先生方にご確認いただけるようにしたいと考えております。

それから、参加者についてですけれども、先日の参加者説明会は原則全員参加してくださいというような形でしたが、今回は、先ほどもお話しさせていただきましたとおり、コミュニケーションの機会という側面がございますので、必ずしも全員参加でなくてよく、スケジュール的に出席可能なチームの主要メンバーが参加していただけるような状況であれば、それで構わないと考えております。

ミーティングの内容といたしましては、各チームが、景観協議案件の箇所ですとか、大規模開発が行われた箇所などの現行ガイドライン策定以降の変化した場所の洗い出しを事前調査を進める中で行っていくと思いますので、それを踏まえた上で、8月の現地調査では、どこでどのような点を確認するかですとか、事前調査を進める中で疑問に思ったことなどを報告していただき、学生さん同士での意見交換であったり、先生方からのアドバイスを受けたりして今後につなげていくというような趣旨を考えております。

続きまして、その具体的なプログラム案を検討しておりますので、ご報告させていただきます。

まず最初に全体説明という形で、キックオフミーティングの趣旨説明等を10分程度行った後、メインの内容といたしまして、指導されている担当先生ごとのプレイキングアウトルームを設置いたしまして、先生が指導を担当されているチームごとに分かれて、先生からの指導ですと

か学生さん同士のディスカッションの時間を設けようと考えております。

その後休憩を挟み、全体ディスカッションに戻っていただいて、先ほどまでのブレイキングアウトルームは先生ごとの閉じたミーティングになっておりますので、全体に共通する話題のディスカッションなどもできる時間をつくり、各先生に受け持っていていただいているチームとのディスカッションの総括を簡単にさせていただきながら、全体に共通する話題の共有を行っていただくような時間にしたいと考えております。また、それを踏まえて適宜全体に関する質疑応答などもあるかもしれませんので、そういった対応の時間も設けていくというような形を考えております。最後に事務連絡等をして終わりということで、2時間程度で収めるという内容を考えております。

このプログラム案を考える前に、開催内容を3案程度検討しました。例えば、ブレイキングアウトルームで、先生方も入らないで学生さんのみでディスカッションしていただくような形ですとか、ブレイキングアウトルームを設けずに全体での議論を進めていくような形も検討させていただいていますが、やはり先生方のご指導も受けつつ、ある程度少人数で学生さん同士の議論もしやすいというメリットが一番大きいため、先ほどご説明させていただいた、指導先生ごとにブレイキングアウトルームに分かれる案を現在検討しているというところでございます。

このプログラム案の内容に関しましてご意見等ございましたら、ぜひお聞かせいただきたいと考えております。

このまま説明を先に進めさせていただきます。キックオフミーティングで各チームから報告いただく内容のイメージをこちらに示しております。

基本的には、A3、1ペーパーでまとめられる程度の分量を目安と考えておりまして、内容といたしましては、先ほども説明させていただいたとおり、現行ガイドライン策定以降のまちの変化箇所を地図上に落としていただきつつ、少し内容をピックアップして整理するような形を考えております。

地図上には、景観協議の大きな案件があった場所ですとか、地区計画が新しくつくられたところすとか、大規模開発があった場所を落としていきつつ、現行ガイドラインの記載を見ていただいて、現地調査に向けて準備を整えていくような形です。

こういった内容の調査を進めていく上で、疑問に思った点を書いていただいたり、今後、現地調査ではこういう点を見ていきたい、というようなことも書いていただいて、ディスカッションのメインは、疑問に思った点ですとか、今後の方針、こういうふうにやっていきたいと考

えているというところについて、先生方ですとか学生さん同士でディスカッションをしていければと考えております。

こちらの資料は、キックオフミーティングの3日前に期限を設けて提出いただくような形で考えております。

このキックオフミーティングに至るまでのスケジュールを検討しておりますので、説明させていただきます。

本日が7月6日の小委員会ということですが、これまでに先生方にもチーム編成のご確認をいただいたりですとか、Slackのほうに、学生さんもですけれども先生方もご招待させていただいているところでございます。

本日、Boxというクラウドサービスに、先生方ですとか学生さんを招待して見ていただけるようにいたしまして、本格的に資料を見ながら調査できるようになってきたところです。

明日を、各チームにリーダーを決めていただく期限にさせていただいております、リーダーが決まり次第、順次作業を開始できると思っております。

まだ最初の段階ですので、ここからキックオフミーティングまでの学生さんのサポートを、少ししっかりめに行っていくほうがいいと思いますので、事務局で考えておりますのは、まず、来週の頭に、我々八千代エンジニアリングと学生さんの各チームのリーダーの方にお集まりいただいて、Zoomで簡単に、30分程度、今後の作業の進め方について具体的な説明をさせていただいたりですとか、事務局側には、各チームとコミュニケーションを積極的に取っていく担当者を設けておりますので、そこでのコミュニケーションも行うような形でスタートアップしていきたいと思っております。

その後学生さんの作業を順次を進めていただいて、また次の週に進捗確認ということで、こちらも学生さんの都合次第なんですけれども、Zoomですとか、またはSlack上のやり取りでもいいんですが、分量としては15分程度、少し話すようなイメージで事前調査の進捗を各チームごとに確認できればと考えております。そういったものを踏まえまして、キックオフミーティングの3日前の7月26日に資料を事前提出いただくような形で進めていけたらと思っております。

先生方には、資料の事前提出の後に数日お時間ございますので、キックオフミーティングの前に、少しこちらの資料を見ていただいたりですとか、必要に応じて、キックオフミーティングの前に少しSlack上などでコメントをいただいたりなどができればと思っております。

キックオフミーティングまでは、学生さんがまだ一度も指導担当の先生と直接お話ししたことがない状態という可能性もあると思ひまして、私ども事務局が主体となって、チームの運営が

しっかり軌道に乗るようにアシストをしていきたいと考えております。

続きまして、中間ミーティングと最終報告会の開催内容の方向性についてなんですけれども、中間ミーティングも同様に2時間ということで、こちらも少し時間がタイトだと考えておりました。基本的なスタンスとしては、参加できる方が参加してくださいということと、あと内容としては、8月の下旬頃ですので、デザインシートも少し進めているのかなということで、こちらの進捗状況の確認ですとか、今後取りまとめに向けて進めていくに当たって悩んでいることについての報告、それを踏まえて、学生さん同士や先生方からのアドバイスを受ける、という内容を考えております。

開催の具体的な内容といたしまして、各チームは、8月24日の中間ミーティングまでに指導担当の先生とある程度、議論ですとか相談はしている状態と考えられますので、中間ミーティングの当日は、ほかの先生などからもより多角的なアドバイスを受けられるような開催内容にするのが好ましいと先日**中島先生**からもご意見いただきまして、そういった方向で今後具体的な開催内容の検討を進めていきたいと考えております。

また、四谷地区と新宿駅周辺地区は、同じ地区内で2チームに分かれておりますので、あまり地区全体で考えることというのはそこまで多くないんですけれども、少し地区全体の特徴の整理みたいなところもありますので、この中間ミーティングの機会に、地区全体の方向性についてのディスカッションなども少し行えるような形で調整できるよう配慮する必要があると考えております。

中間ミーティングのプログラムの流れとしては、プレイキングアウトルームで指導担当の先生以外とも話せるよう段取りしていくことを、今のところ考えているところです。

最終報告会は、デザインシートの発表を全員参加で行うといった方向で考えている状況です。

資料1についての説明は以上になります。キックオフミーティングのプログラム内容とスケジュールのところについて主にご意見いただければと思います。よろしく申し上げます。

○**中島委員長** ありがとうございます。

大変丁寧にプログラムの内容を検討していただいていると思いますが、先生方のほうで、7月29日に行われるキックオフミーティングの開催方法をメインとして、ご意見や、何かご質問等ございましたら、ぜひよろしく願いいたします。

○**坂井委員** 坂井です。説明ありがとうございました。

次の小委員会が開催されるのは9月6日の最終報告の後ですよ。つまり、今日中にキックオフ、中間、最終までの流れを確認しておいたほうがいいということだと思いますので、キック

オフミーティング後のこともお話を聞きたいなと思っています。

今、参加者説明会の資料を見ているんですけども、エリア別デザインシート①、②とかこのあたりを、中間ミーティングの時に学生が提出する目標にしているのでしょうか。ちょっと思い出させていただければと思います。お願いいたします。

○**中島委員長** ありがとうございます。

確かに最終のイメージは共有されていますけれども、中間というのはまだ特に決めていなかったのと、あと、多分チームによって恐らく進捗が違うので、どうなるかというところだと思いますが、八千代さんのほうで何かお考えになったことはありますでしょうか。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そのあたりの説明が少なかつたんですけども、今、**中島先生**にもおっしゃっていただいたとおり、中間ミーティングのタイミングというのが一番各チームでの進捗の差といいますか、なかなかすばつと決め切れないところと考えておまして、現在考えている内容といたしましては、やはり進捗の差があるので、9月6日のデザインシート発表に向けてのミーティングということなので、それを作っていたという状態ということを想定して、現在、こんな感じで作っているというようなたたき台のようなものを出していただくのが基本なのかなというふうに考えています。ただ、チームの中の学生さんのスケジュールによっては、8月下旬からエンジンをかけていくということもあり得るのかなと考えておまして、そういったチームの場合は、デザインシートがあまり進んでいないのかもしれないなと思っております。そういった場合は、例えばそれまでに行った現地調査の報告ですとか、こういうふうにデザインシートを今後作っていきたいといった考えをお話していただくような形になるのかなと考えております。

つまり、先ほどお示ししたキックオフミーティングのような形で、こういうものを作ってくださいというように一概に何か示すのは、少し難しいのかなと考えているところです。

○**坂井委員** よく分かりました。9月6日のゴールに向けての事前のチェックで、できているところもあれば、少し遅れているところは頑張つてという感じでというのが中間ミーティングということですね。ありがとうございます。

○**中島委員長** ありがとうございます。

**坂井先生**のおっしゃったように、基本的にはデザインシートに着手していて、その草案を持ってくるというのは何か一応基本にしておいて、でも、どうしてもできない場合は前の素材でいいというぐらいの、何か目安がないとやっぱりちょっとやりにくいのと、あと、やっぱりちょっと進んでいるところは進んでもらったほうがいいですね。それでほかの班に刺激を与

えて、「ああいうことをやればいいんだ」みたいなので全体の底上げになるので、そういう意味では、デザインシートの素案をつくってくるということは伝えたほうがいいのかなど思ったのと、あと、**坂井先生**、確かに小委員会としては、今日の後がもう9月6日の後になってしまうのですが、やりながらこれは調整しないといけないことなので、次回のキックオフのときにでも、中間の話を少し修正したりとか、何かそんなことをやりながら進めるのかなと思っておりますので、それではよろしくをお願いします。

○**坂井委員** 分かりました。ありがとうございました。

○**中島委員長** では、**伊藤先生**、いかがでしょうか。

○**伊藤委員** **伊藤**です。ご説明ありがとうございました。

キックオフまでにまとめてくる内容について、4ページ目にあると思うんですが、これを学生が事前で作ってくれるということですよ。例えば、その右側の「主なまちの変化」というところで書いてあるんですけども、これを出てきたものに対してコメントするというのはもちろんするんですけども、これが適切かどうかというのもチェックできるようにしておいたほうがいいんでしょうか。つまり、エリアの変化を、例えば私も全部把握しているわけではないので、それは資料を見て、「ここ、抜けているよね」とかいうところまで指摘する必要がありますか。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ご質問ありがとうございます。

こちらの「主なまちの変化」に関するチェックについては、基本的には事務局のほうで確認できることというふうに考えております。

といいますのも、学生さんに提供する基礎資料の中に、各エリアに、例えばどういう地区計画があるかですとか、市街地再開発事業があったかというのは、全て書いてありまして、あと、景観届出案件の箇所も新宿区様のほうからご提供いただいた台帳がございますので、漏れというのを先生方にご確認していただくような必要はないと考えております。

○**伊藤委員** 分かりました。じゃ、基本的には、出てきたものの、もう少し大きい方向性とか進め方についてコメントしていけばいいということですね。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。先生方には、そちらのほうをぜひコメントいただけるといいというふうに考えています。

○**伊藤委員** 分かりました。ありがとうございます。

○**中島委員長** **篠沢先生**、どうぞ。

○**篠沢委員** キックオフの、今ちょうど共有で映っているシートをベースに作業をすると、

言い方は悪いですが、ここの都市計画がその地域エリアに適切なのかどうか、そのエリアの特性と、どういうふうな関係を持っているか、というのを判断しづらいと思うんですね。

例えば私が担当している落合の1とか2のエリアに関して言うと、ほとんど④が1か所みたいな感じで、学生たちが少し広い範囲を歩くというような、そういう地域の特性を分かった上でこのシートを見るというような状況がうまくつくれるかなと。そうじゃないと、学生たちは与えられたところだけ見て、与えられた中で公開空地がどうだとかいう話をするんだけど、その周辺エリアの特性から、その地域というか、その箇所を見るような感じにできればしたいなと思うんですけども、そういう方向性というのは今考えられているんですけど。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** 現在こちらで考えていた流れといたしましては、やはりこの事前調査は、8月に現地調査をしていただくための下調べという側面が強いと考えておまして、その上で、8月の現地調査なんですけれども、やはりスケジュールがかなり限られている中で、現行のガイドラインが策定されたときのワーキングのように、くまなく歩いて体感というところまでできるのかどうか少し不安だなというふうに考えておまして、そういったところも踏まえて、今回改定ということで、まずは最低限、やはり変化した箇所をしっかりと確認するのが現地調査で一番大切なことと考えております。そういった考えの下、こういったような形で変化の箇所ごとに整理していくような内容を考えておりました。

**○篠沢委員** 分かりました。ということは、逆にそれは担当教員からアドバイスをするという感じでいいんですね。例えば、「こういうのをちゃんと読んで、昔、学生たちがどう考えたか、そして今はどうなのか、というようなことを考えようね」、というのは僕らの仕事というように理解していてよろしいですか。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。現行のガイドラインの内容がどのように決まったのかですとか、そういったところの基礎的なお話といいますか、そういったところ、ぜひ先生方にしていただきたいというふうに考えております。我々もちよっと聞きたいなと思っているぐらいなんですけれども、そういった地域全体の特性ですとか流れみたいなどころを中心的にアドバイスいただければいいと考えております。

**○篠沢委員** 分かりました。勉強しておきます。

**○中島委員長** ありがとうございます。

現行の景観特性図の上にかいたりとか、あと、当然今の景観ガイドラインの方針と、この開発とが適合というか、どういうふうに反映されているかとかという視点はこの時点でもありますよね。その個別物件というのは、基本的には地域のエリアの特性が前面に出ていますので。

じゃ、どうしてそういう特性ができたのかとか、そういうところまでは踏み込みがこのシートではないですけども、現行の景観特性図の上にプロットするというのは物すごく大きいかなと思っています。左の図はそういうことですよ。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。

**○中島委員長** ありがとうございます。

あと、具体的に何か確認事項があったかと思うんですが、ちょっとそのページをスクロールしていただけますでしょうか。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** キックオフミーティングの内容自体に関しては、全体的にプログラムの内容に沿ってご確認いただきたいのですが、付随して、ワーキングを進めるに当たって、参考資料に幾つか確認させていただきたい点がありますので、そちらの説明も今してしまってよろしいでしょうか。

**○中島委員長** では、参考資料のほうをご説明をお願いします。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** 参考資料1に、ワーキングの運用ルール案ということでお示ししているんですけども、こちらが本日あたりに学生さんに、ワーキング全体のやり方といますか、連絡体制はこうなっているとか、Boxをこういうふうに使ってくださいですとか、現地調査に行くときのルール、緊急時の連絡体系といった基本的なルールを提示しようと思っているんですけども、その内容についてになります。

まず、主な先生方にお話ししたいところは連絡手段のところなんですけれども、もう既にSlackのほうに先生方も入っていただいているかと思ひまして、基本的な今後のワーキングの実作業上のやり取りはSlackをメインに活用していければいいのかなと考えております。

1点目、確認したいことに関しては、まず先生方と学生とのやり取りの仕方に関してなんですけれども、現在、先生方にご担当していただくチームのお部屋というか、チャンネルのほうに入っていただいている状態になっているかと思うんですけども、基本的にはそのチャンネルをベースとしながらも、先生と学生のやり取りの仕方は各先生にお任せするというので、例えばあまりSlack上で流動的なやり取りをしたくないなという感じでしたら、Slack上で一言、「基本的にはメールで連絡してください」と言っていただければいいと思いますし、あるいは、基本的な指導はZoomで行ったほうがよかろうということでしたら、Slackはあくまで日程調整の場という形で、具体的なアドバイスはZoomで行うですとか、そういったところは先生方にお任せできればと考えておりますので、そのような形をお願いしたいなというところです。

あと、もう1点が、先ほどの確認事項のところですけども、Box、クラウドのほうも本日オ

オープンできるように整えておりました、こちらは基礎資料のアップロードももちろんですが、学生さんの作業データの保存ですとか、容量が無制限のため、自由に使っていただきたいと考えております。あとは現地調査の日程の申請とかミーティングの出欠みたいなのところも、このクラウド上の機能を活用しながらやっていきたいというところです。

こちらのBoxについても、先生方をご招待させていただきたいと考えております。Boxの中に成果物アップロード用フォルダを今作っておりますが、先生方に参加いただくと、例えば今度のキックオフミーティングの事前資料の提出のときに、フォルダにファイルを学生さんにアップロードいただければ、先生方に事前にそこをのぞいていただいて資料を見ていただく、ということが可能ですので、特段問題がなければ、後ほど招待のメールをお送りしたいと考えているところです。

2点目の確認事項ですけれども、現地調査に関する安全管理の面の段取りに関しまして、基本的に現地調査に行く日時を学生さん同士で決定したら、1週間前までに事務局に報告してもらうようにしまして、それを踏まえて、区民委員の方がもし行けるという場合は調整したりですとか、あとは事務局のほうもできるだけ一緒に行けたらと思っておりますので、その調整をするというような形で考えています。

そこでなんですけれども、事務局のほうへの日時の報告は今申し上げたとおりなんですけれども、このワーキングに対する報告とは別に、所属されている学生さんが各大学に対して、現地調査を行う報告が必要な場合があるのかなというふうに考えておりました、各大学でどのような運用なのかをお聞きしたいというところが、確認事項としてございます。

参考資料1に関しましては、確認させていただきたい事項は主にこの2点となります。

**○中島委員長** じゃ、今、もうこれは確認してしまえばいいですね。

Boxの話は我々も入れていただくというのがスムーズでいいと思いますので、それも特に議論はないかと思えます。

あと、大学ごとの申請に関しては、我々東京大学は必要なので、私のほうに情報を共有していただくような形が必要になります。

ほかの先生はいかがでしょう。

**○坂井委員** うちもお願いします。

**○伊藤委員** 連絡していただければと思います。

あと、1点確認ですが、学生の保険は入るということでよかったですよね。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。こちらのほうでイベント保険をご用意

意しております、参加者皆様に入っていただくような形で手続いたします。

○伊藤委員 分かりました。これは学生本人なんですけれども、例えば何か、あまりないと思いますけれども、どこかに迷惑をかけてしまったとか、何かそういうのはカバーされるんでしょうか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 今回のイベント保険が、基本的には事故によるけがに対する補償と、あと特約で、真夏ということなので熱中症による体調不良に対する、もし入院とかしてしまった場合の補償の、この2点が主な補償内容となっております、そういう損害補償のような内容は入っていません。

○伊藤委員 そうですか。分かりました。

○篠沢委員 工学院大学も必要なので、送っていただければと思います。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 承知いたしました。では、現地調査日時に関しては、基本的にどの大学も、大学への報告も必要ということなので、こちらに報告、この日時に行いますというものが上がってき次第、随時共有させていただくような形で進めるということによろしいでしょうか。

○中島委員長 大学によって、必要な情報やタイミングが違うと思うので、基本的には学生もワンストップというか、必要な情報は1つ、ワンパッケージにして、事務局のほうに申請するとそれが自動的にこっちに回ってくるか、あるいはCCで、そもそも学生のほうも我々にも申請するようにするかという、何か取決めだけ決めていただければ。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） すみません。ちょっと一旦画面共有を別の画面にさせていただいていいでしょうか。今、Boxの画面、ご覧いただいていますでしょうか。

○中島委員長 はい。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 今回のBoxの「運営管理」のところで、このような形で現地調査日時申請フォームみたいなものを作っています、ちょっとまだこれは仮の感じなんですけれども、基本的にこのような形で、日時が決定次第、各チームに、何時から何時、何エリア、参加者誰みたいなものをフォーマットで記入していただくような感じにしようかなと考えていました。なので、こちらに集合場所、解散場所ですとか、大学に報告しなければならない事項も後ほどしっかりと確認して記入していただくようなスタイルにすれば、情報としてはいいのかなと考えておまして、この確認というか、これについて、これを我々が確認して、改めて先生方に何大学の何々さんがというふうにするのか、うまいやり方を考えようかなと考えているんですが、基本的に学生さんから事務局に対する現地調査の日時の申請の

スタイルとしては、こういう形を考えています。

○**中島委員長** 分かりました。しかし申請があったということを見落としてはいけないという事です。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうなんです。しかも学生さんがチーム内で大学がばらばらなので、それがちょっと問題なので。

○**中島委員長** では、フォームとしては、各大学の必要な情報が何なのかをちょっと集約して、それをなるべく全部網羅する形で、書いていただくということですよ。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。そういう形でできればいいかなと思います。

○**中島委員長** よろしく願いいたします。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ありがとうございます。

1点だけ追加でワーキングに関する確認内容があるんですけども、参考資料1-2という、ちょっと後出しでお送りした資料になるんですが、四谷地区と新宿駅周辺地区が、1つの地区の中に2チーム分かれて入っているということで、具体的に各チームがどのエリアをやるのかというところを決めていなかったなと思ひまして、今回、昨年度からつくられているランク分けがあると思ひますので、上から順に割り振りをしているんですけども、特に問題がなければこれで、学生さんに追加で周知しようと思ひているんですけども、いかがでしょうか。

○**中島委員長** 大事なところですね。四谷のほうですが、これは地理的にはまとまっているんですけど。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。Aチームのほうは外濠と四谷北、主に四ツ谷駅周辺の部分です。あと、信濃町のほうも入れています。Bチームのほうは外苑前というか、あの辺りのエリアと、あと新宿駅につながってくるようなところ、四ツ谷駅の下半分というか、そういうところをやっていただくような形で考えています。

○**中島委員長** AとBの担当の先生はどなたでしたか。

○**坂井委員** Aが**中島先生**で、Bが**坂井**だったと思ひます。

○**事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。

○**中島委員長** なるほど。いかがでしょうか。あまり我々が好みを言ってもしょうがないところはあるので、難易度というか、エリアの大きさとか難易度が同じぐらいであればいいということですよ。あとまとまりですかね。何となくこれは、四谷の場合は、これ、AとBで大分四谷の話とちょっと新宿寄りの話とで分かれていて、いいのかなと。

坂井先生、どうですか。よろしいでしょうか。

○坂井委員 私もそう思います。大丈夫です。

○中島委員長 じゃ、これはこれでよろしいとして、新宿のほうは、私と篠沢先生でしたね。

○篠沢委員 はい。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 中島先生がAチーム、篠沢先生がBチームです。

○中島委員長 なるほど。まさに工学院大学が入っているということですね。これは分け方として、新宿駅の東西で分かれているわけではないですね。例えば超高層とかを別にするのがいいのかどうかとか。ただ、ほかをどうするか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） Aチームのほうに人数が1人少ないこともありまして、Bのほうにエリアを1つ多くしているという側面もあります。

○中島委員長 篠沢先生どうですか。

○篠沢委員 難しいですね。人数がいてもどれだけこなせるのかも分からないので、機械的でいいんじゃないかなと思いますけれどもね。途中、中間、あるいはキックオフで何か問題が生じたら少し考えるのかなと思いますけれども、どうでしょう。

○中島委員長 じゃ、そういうことであれば、これで地域的なまとまりはおかしくないというか、超高層はどっちでもいいんですけれども、Bランクなので、これでいいんじゃないですかね。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） ありがとうございます。では、このような形で学生さんには周知をしていこうと思います。

○中島委員長 はい。ありがとうございます。

○坂井委員 進行の方法なんですけれども、AとBと分かれています、キックオフでは分かれてやって中間でも分かれて、どの時点でAとBを合わせていく必要があるのかなと。そのあたり、どのように考えていらっしゃいますでしょうか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） キックオフミーティングのときは、AとBがばらばらでも問題ないのかなと思うんですけれども、中間ミーティングの際には、同じ地区で2チーム分かれていますところは、一旦集まるような形がいいのかなというふうに考えていまして、地区全体で考えることがそこまでないんですけれども、例えば地区の地形とか歴史とかみどりみたいなどの整理されているページが現行のガイドラインでありますので、その確認ですとか、あと地区全体の方向性を一言一言を考えてもらうという内容がございますので、

その辺の調整を、この中間ミーティングのタイミングでできるようにつくるのがいいのかなと  
考えております。

○坂井委員 ありがとうございます。

○中島委員長 では、議題の1は以上でよろしいですかね。これでワーキングのほうは進んで  
いけるということで。

○事務局（景観・まちづくり課） すみません、新宿区です。1点補足させていただいていい  
でしょうか。

○中島委員長 はい、お願いします。

○事務局（景観・まちづくり課） ワーキンググループの資料の中に区民委員の参加につい  
てと記述があったと思うんですが、現在、審議会の委員さんに照会させていただいたところ、  
4人の方からまち歩きに参加したいと回答をいただいています。お名前を申し上げますと、浅  
見委員さん、和田委員さん、安田委員さん、大橋委員さんからお申し出いただいております。  
この4人の方については希望地域を伺っているところです。今後の学生さんを中心としたまち  
歩きに同行できるよう、日程調整していきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○中島委員長 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

## 議題2. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン構成改定（案）について

○中島委員長 では、議題の2のほうに移りたいと思いますが、議題の2は景観形成ガイドラ  
インの構成改定についてということで、資料2のほうのご説明をお願いいたします。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 資料2をご説明させていただきます。

まず資料を開いていただきまして、前回の小委員会でご指摘をいただきました内容ですけれ  
ども、区域とか全域とか、何か似たような言葉が何度も使われているというところで一旦整理  
をさせていただきました。

景観計画の区域全体を示す言葉として「区域」、それから、区分地区ですとか一般地区、あ  
とは屋外広告物の地区別のものに関しては「地区」という言い方をしております。エリア別ガ  
イドラインのほうなんですけれども、こちらは当初どおり、「地域」とそれぞれの「エリア」  
ということで整理をしております。

続きまして、次のページです。

こちらは特に変更はないんですけれども、今の「区域」とかといったところの文言をもう少

し修正したものとなっております。景観計画の構成のほうになります。

次のページをお願いします。

こちらが景観形成ガイドラインの構成になりまして、前回ご指摘いただきましたとおり、現在エリア別が頭に来ておりまして、その下に広域要素、総合計画という流れになっておりますけれども、前はエリア別を後ろに持っていたんですけども、やはり新宿の特性からエリア別は頭に持ってくるべきだということで、今変更した形となっております。ですので、エリア別と、それからその下に区域共通ということで整理をさせていただきました。

続きまして、次のページになります。

こちらは屋外広告物景観形成ガイドラインになりますけれども、こちらは流れとしては変わっていないんですけども、第2章のところを「区域共通」という言葉に変えておりまして、第3章のほうは「地区別」のままということになります。

それから2章のところ、2-1、景観誘導の視点ということで「要素別」と「場所別」と「時間別」という言い方をしていたんですけども、2つ目の「場所別」のところを「立地環境別」というような表現にさせていただいております。

続きまして、前回ご指摘いただきました見取図について、今回2つ作成しております。

まず1つ目なんですけれども、次のページをお開きください。4ページ目のほうは目次と同じ流れで見ただけのようなものでして、上が建築行為を行おうとする方、下は区民の方で興味のある方という流れになっておりますけれども、こちらは景観計画・景観形成ガイドラインの第1章から順次見ていただくときのポイントについても示したのになっておりまして、景観計画の頭の目次のところでお示しする形で今検討中でございます。

次のページを開いてください。

こちらは手続を行う際の流れなんですけれども、上が建築行為、下が屋外広告物の掲出の際の手続の流れとなっております。この流れの中でこういった資料を見ていくのかというところが見られるような形になっておりまして、こちらについては、手続に関する内容ですので、掲載箇所については今後検討しますけれども、両方の見取図を構成していこうというふうに現在考えているところです。

説明は以上になります。

○中島委員長 ありがとうございます。

大枠の部分でございますけれども、何か今のご説明に関しましてご質問やご意見ございますでしょうか。

○伊藤委員 伊藤です。よろしいでしょうか。

見取図をお示しいただいて、これを載せていただくと分かりやすくなると思うんですが、見方がよく分からないところがあるので教えていただきたいんですけども、4ページ目です。利用者別というところで、下の段が「区の景観の取り組みを知りたい方」というふうになっているんですが、これは、2章は4から見ればいいよという意味なんですか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 矢印が全体にかかっているような形で、上の青のほうは2章の1、2、3で、3の先に青の矢印が枠の中に入ってきている形でお示ししているんですけども、緑のほうは2章全体を見てくださというふうな。こちらはたたきで作ったものですので、皆さんに分かりやすい形で最終形としては整理したいなと思います。

○伊藤委員 分かりました。区の景観の取組を知りたい方は順番に全部見ていくということですね。分かりました。若干そこが分かりにくいので、表示の仕方だけだと思いますが、工夫していただければと思います。

○中島委員長 緑の方は、薄い青じゃなくて薄い緑にすれば分かりやすいんじゃないですか。下の図のボックスの色が薄い青でなっていますよね。これを薄い緑にしていだけでも、いいんじゃないかと思うんですけども。すみません、表記の問題ですけども、そうすると、緑と青との重なりがより分かるかなと思いました。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 分かりました。ありがとうございます。

○中島委員長 ちなみに、ここの途中で出てくる「建築物・工作物の整備を検討している方」と「屋外広告物の掲出を検討している方」という2つに分かれるんですけども、その具体的なガイドラインじゃなくて、手続のほうで、これの枠に合わせて次のページに載っているということですね。次のページの話とこのページとはどういう関係があるのかが、一瞬混乱するというか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） そうですね。確かに次のページのBのほうは、どちらかというとガイドラインがメインです。

○中島委員長 これ、例えば次のBのほうは手続なんですけども、その手続の中で、この景観形成ガイドラインを読むんですよね。景観計画の形成ガイドラインを読んで、Bのほうで、その後手続しましょうということですかね。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） そうですね。もともとはどちらかの案でいくということで2案を設定していたんですけども、両方載せたほうが分かりやすいんじゃないかというところで、今これ、両方の案を載せる予定で検討はしているんですけども、Bの

ほうは、どちらかという手順の流れの中で見ていただくような感じで考えておりますので、冊子の中でも最初のAのほうは目次とセットで掲載する形で、冊子を見るときに、どこをどういう順番で流れるのかなというところを確認していくもので、Bのほうは、実際に手続を行う際に何を確認していかなきゃいけないかというところが見られるものとして整理したのになります。

ですので、見るタイミングも違うので、完全にリンクした形で出せるかというところはあるんですけども、Bのほうをどのあたりで表示していくかによって、関連性があつたほうがいいのかもわからないので、入れ込んだ形で一度作ってみたいなというふうに考えております。

**○中島委員長** 分かりました。連続してこれが出てくるということじゃなくてということですね。だから、後半のほうはどこか手続の最後のほうに多分出てくるんだということで、あえて言えば、Aのほうのどこかに具体的な手続については何ページの何とか参照とかというのが入っていればいいのかと思いました。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。ありがとうございます。

**○中島委員長** ありがとうございます。

**○篠沢委員** デザイン的な問題なんですけれども、4ページ、真ん中で矢印が交差しているじゃないですか、点線の矢印と緑の矢印。「取り組みを知りたい方」というのを横に見ていくと屋外広告物になって、これは違うなと思うんですけども、何か屋外広告物の位置を少しアレンジした上で、さっきの緑と青の色の関係が出るといいのかなとふと思いました。

つまり、建築行為を行おうとする方と取組を知りたい方のメインストリームは、最後、景観形成ガイドライン上部に行くんですけども、さらに屋外広告物の担当の事業を行う方は別の位置なのかなと。感想です。

以上です。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ありがとうございます。

**○中島委員長** 確かにちょっと複雑ですね、そこは。でも、内容はよろしいというか、あとはちょっと本当に作成者の工夫だということだと思いますので、よろしくお願いします。

じゃ、よろしいですね。

議題3. 新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン改定項目における検討方針  
(案) について

**○中島委員長** じゃ、次が大事ですね。具体的な改定内容です。3番目、お願いいたします。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） では、資料3についての説明をさせていただきます。

まず1ページですけれども、超高層ビル群のスカイラインに関する景観形成ということで、前回の委員会でご指摘いただきました内容に少し修正を加えております。

まずは景観計画のほうなんですけれども、冒頭の文章からずっと読んでいきますと、特に「日本の顔となる眺望景観」という言葉は必要ないのかなというところで、現在削除しております。

それから、今までは「都庁第一庁舎を中心とした」というところでしたが、今回「新宿駅を中心としたまとまりのあるスカイライン」ということで修正をさせていただいております。

それから、形態意匠に関しましても、「一体感」という言葉を追加させていただきまして、ガイドラインでも形態意匠の話ですとか、あとは光、夜間に関しての一体感といったところも追加させていただくような形で整理をしております。

スカイラインのほうなんですけれども、現在、区外の主な視点場として、今ちょっとマップが載っておりますけれども、東京都と新宿区の「新宿の拠点再整備方針」の中で、区外の主な視点場ということで示されたものになります。そこに赤字で追加をさせていただいておりますけれども、東京スカイツリーですとか渋谷スカイですとか、そういったところも追加しております。また、民間の施設と、それから、今下線が引いております文京シビックセンター、恵比寿ガーデンプレイスタワー、それからキャロットタワーについては公共施設ということで、無料で施設に上られるというようなものになっております。

参考資料のほうを見ていただきたいんですけれども、参考資料の4ですね。参考資料の4のほうに、そこからの眺望を載せております。遠くからでもこんな形で見えてくるんですけれども、東京タワーにつきましても、前に大きなビルが建っていたりするので、逆に見づらいような視点場になってしまっておりますけれども、遠いスカイツリーですとか、そういったほうからも見える。ちょっと天気の良い日には見えてくるというところになります。それから、その下に無料で上られる恵比寿のところですかキャロットタワーのあたり、こちら結構きれいに見えるのかなというところなんです。

次のページに続きまして、こちらは新宿区内の視点場ということで、まずは中央公園のところにあります眺望のもりから見た視点場、それから、右側は、先日現地調査を行ったときに、戸山公園周辺の、右側が線路なんですけれども、線路沿いの少し開けた空間のところで見えてくるというようなことが分かっております。区内に関しては、今後現地調査とかフィールドワ

ークなどで視点場の確認を行っていきたいと考えておりますけれども、超高層ビル群の区外からの視点場ということで幾つかお示しをさせていただきました。

資料3のほうに戻っていただきまして、ガイドラインの上のほうですね。文章のところ、今、「新宿駅周辺、新宿御苑」、それから現在では、仮に「渋谷スカイやスカイツリーなどの区内外の主要な視点場からの見え方をシミュレーションし」という言葉を追加させていただいているところです。

続きまして、次のページを開いてください。

下のほうに行ってくださいまして、一番下のところですね。景観事前協議・行為の届出の手引というところで、前回、シミュレーション図というものを示すようにということで書かせていただいているんですけども、それに加えて事業者様から説明を求めるところで、景観形成計画書の中でも、このスカイラインについてお話をいただけるような形で整理を進めているところです。

続きまして、その次のページですね。

続きまして、②の景観形成に影響を及ぼす建築物等の高さに関する考え方になります。

こちらについては、景観事前協議制度、都市計画諸制度との連携というところで、景観計画の中の第3章の中で事前協議制度について書かれた文言がございます。その最後に、新宿区景観まちづくり審議会へ報告する対象となっている大規模建築物ですとか、2番のところで地区特性を考慮するものといったところが示されているんですけども、このあたりを景観計画の中でもお示ししていこうというふうに考えております。

続きまして、次のページに行ってください。

こちらは景観形成ガイドラインのほうなんですけれども、今現在、総合設計という形で整理しているところなんですけれども、そこについては、大規模建築物等に関わる景観形成ガイドラインということにさせていただきまして、その上で、内容については現行のものを少し修正したものになっております。

修正内容としては、今赤字で示したところになりますけれども、現行の東京都の景観形成基準が夜間照明に関する内容がかなり充実しておりましたので、その内容に合わせてこちらでも文言を追加させていただいております。

こういった形で、少し景観計画、それから景観形成ガイドラインの中で、東京都の都市計画手法との連携みたいなところを強めに示していったところになります。

続きまして、次のページを見てください。その次のページですね。

③の夜間の景観形成というところですが、前回ご指摘をいただきまして、文言について少し分かりにくい、具体的に書かれていないところがあるんじゃないかというところでご指摘いただきましたので、特に下線のところで少し修正を加えております。

その次のページですね。

④として、新たな屋外広告物に関する景観形成ということになります。前回整理したものは、2-1の景観誘導の視点の中で全ての内容を整理していたんですけども、ご指摘いただきまして、現在安全に関わるものとか、あとは啓発に関する内容については、2-2のほうの次のページの下のほうですね。ここの2-2のところを場所を変更しまして整理しております。

2-2の中では、歩行者の安全や健康を守ること、交通安全性の確保、それから、窓面の話でいきますと、開口部としての機能を妨げないといった内容を2-2のほうに入れております。それから、もう一つ新たな視点として追加しているのが5番になりまして、地域貢献やまちづくりにつながる広告というところを追加させていただいております。

その具体的な方策については次のページになります。屋外広告物を活用したエリアマネジメントの話ですとか、地域や場所を豊かにする仮囲い広告物、それから地域に貢献するデジタルサイネージという形で、2-2のほうを少し充実させるような形で整理をし直しました。

続きまして、次のページをご覧ください。

⑤日本らしい景観と国際色豊かな景観に関する視点ということですが、前回、景観計画の中の基本方針の視点1)、2)、3)の中に、新たにこの内容について文言を追加させていただいたんですけども、ちょっと新しい別の視点として入れていったほうがいいんじゃないかというご指摘もありましたので、今、視点4)として作成しております。

ちょっとこちら、分かりにくいので、参考資料の2のほうを見ていただきたいんですけども、これの10ページです。

今、景観計画のほうも、このような形で作り直しております。ここですね。2章のところの2の区域に共通する景観形成の方針の中に基本方針があるんですけども、その一番下の4)というところですね。4)に、日本らしい景観、国際色豊かな景観に関する内容を追加させていただいた形になっております。

続きまして、すみません。もう一度資料3のほうに戻っていただきまして、次のページですね。

公共空間における環境や人の活動を重視した景観の視点ということで、まずは、下線のところです。少し分かりにくい表現になっていたところを修正しているというところですが、

それに加えて、前回ご指摘いただきましたみどりとか環境に関する項目というのを、右の(4)のところですね。環境に配慮した公共空間を形成するというところで、1つ項目を設けまして、その内容を充実させたというところになっております。

次のページの下のほうですね。もう一つ、こちらも、誰もが使いやすい公共空間をつくることといった中で、2番目として市民・民間・行政の連携による公共空間づくりという中に、エリアマネジメントに関する文言も追加させていただいたところです。

それから、その下にちょっと小さく入れておりますけれども、社会実験ですとかイベントなど、一時的なときにはどうするのかというお話がありましたので、そういった場合でも、上記に関しては配慮してくださいというような内容を追加させていただいております。

説明のほうは以上になります。

**○中島委員長** ありがとうございます。

景観計画改定の具体的な内容の話なので大事なところなんですけれども、どうしましょうか。これ、順番にいったほうがよろしいですかね、この部分については。

じゃ、最初、超高層ビルのところでございますが、ちょっと先に言っておきますと、今回視点場として、今まで区内の中でどこかとか探していたんですけれども、もうちょっと広域の視点で、新宿のスカイラインが見える場所がないかということで、こういうものを提案していただいたんですけれども、事前に説明を聞いたときにちょっと気になったのが、東京スカイツリーとか東京タワーから見えて確かにいいんですけども、その視点場の公共性をどう捉えるかというのが微妙なんじゃないかというところがありまして、要は、民間の営利施設ですので、それからの視点場。普通、我々が視点場というときは、やはり公共的というか、誰もがアクセス可能な場所からの景観というのがやはり大事だというふうに考えるので、ちょっとそこをどういうふうに考えようかというようなことを投げかけさせていただいた結果として、今回こういう形で、無料というのは、実際そういう無料であるかどうかというよりも公共性があるかどうかということなんですけれども、そんなものも付け加えていただいたという、そういう経緯があるということの中で、まずこの最初の超高層ビルの話ですけれども、いかがでしょうかね。どう考えていくか。ご意見、ご感想等々、よろしく申し上げます。

**○伊藤委員** 伊藤です。視点場を加えたという話と多分関係ないんですが、2ページ目のところにスカイラインのPLATEAUで描かれた図があるんですけれども、これって何なんでしたっけ。これを載せるんですよね。新宿都庁という、都庁本庁舎を中心としたというのを消して、「新宿駅を」と記述はなっているんですけれども、何かこの図だと都庁というのしか示されていない

いのがちょっと気になったんですが。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ありがとうございます。すみません。この図、そのまま残しているんですけども、実際には、この図をそのまま使うというイメージではなくて、削除してもよかったんですけども、今そのまま残している状況なんですけど、今後いろんな視点場を見ていく中で、スカイラインとして構図を示していくのか、あるいは写真として示していくのか。

1つお見せしていなかったのが、参考資料の3番のほうが高層ビルの景観形成ガイドラインになります。今イメージとして作っているもの、たたきなんですけれども、1番のところは今この話に関係するところになりますけれども、今現在載せているものとしては、先ほどの中央公園の眺望のもりからの視点、それから下のほうに少し区内外の視点場を載せていこうかなというふうに考えているところなんですけれども、実際にスカイラインとして図として示すのか、こういう形で写真で示していくのかということところは、ちょっと今後検討かなと思っているところでございます。

**○伊藤委員** 分かりました。じゃ、取りあえず今、仮で入っているということですね。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。すみません。

**○中島委員長 篠沢先生、お願いします。**

**○篠沢委員** 私も、今の伊藤先生のご指摘のところはちょっと気になったんですけども、「新宿駅」に文言を変えたというのは、新宿駅の今動いているグランドターミナル・デザインポリシー、グランドターミナル構想とのリンクなのですよね。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい。

**○篠沢委員** 恐らくその段階でグランドターミナルの側が、あるいは新宿区さんがスカイライン検討をなさっているのではないかと思うんですよ、確定しているかどうかは分からないんですけども。

要は、区としてこういう一体感をこう考えて、これは一体感だ、これは調和だというふうに理解しているという図がここに出てくるのがふさわしいのかなと思うんですね。つまり、この今の残っている仮の図でも、「じゃ、建てられるじゃん」という業者がいっぱいいな感じがしちゃうんですね、この部分に。こういうふうに一体感を形成するスカイラインを区としては考えますというのが、うまく新宿駅の構想とリンクでここに出てくるといいなと思ったんですけども、それというのは、時期的にグランドターミナルの進捗と、この景観ガイドラインとの出版のタイミング等もあるんですけども、そういったことは可能なんですかね。

**○事務局（景観・まちづくり課）** 新宿区です。

確かに先生ご指摘のとおり、今、グランドターミナル・デザインポリシーということで、2019から出まして、今2020、これも実のところ、秋の審議会の中で報告できるものであればしたかったんですけども、オーソライズが間に合わないということで所管から連絡をもらっています。ですから、我々が景観計画とガイドラインを今年度末に素案という形で出すところには、恐らくはちょっと間に合わないのではないかなと考えているところです。

**○篠沢委員** 何かちょっと心苦しいですね。

**○事務局（景観・まちづくり課）** そうなんですね。

**○中島委員長** ちょっとその点、確認なんですけれども、この新宿駅を中心とするというのは、これは何かもうグランドターミナル・デザインポリシーのほうでそういうふううたっているんでしたっけ。

**○事務局（景観・まちづくり課）** グランドターミナル・デザインポリシーでは、「新宿駅を中心」という表現は入っていません。

**○中島委員長** 通常からいうと、やっぱり都庁を中心にやってきたので、都庁と新宿駅の2つが何となく両極になるなというのは分かるんですけども、都庁を消すと、なんか今までのつくってきた景観は何なんだというか、ちょっとその整合性が取れないんじゃないかというか、連続性がなくなるんじゃないかとか、実際には都庁に1つピークがあつて、もう一個新宿駅にピークが来ることなので、消さない方がいいんじゃないかというふうには思うんですけども、そこはどうなんでしょうか。

**○事務局（景観・まちづくり課）** なるほどですね。この点について、我々区の中でも協議させていただいたところ、区の中では、トップが2つあるのは変なんじゃないのという意見がありまして、都庁を消して、さらに高くなってくる新宿駅を残しているという判断だったんですね。

**○篠沢委員** 篠沢です。

でも、そうしちゃうと、今回言っているスカイラインの一体感という話が、今まで都庁だったけれども、新しく開発したらトップは変えていいんだみたいなことになっちゃうと、何か整合性が取れない感じがしちゃうんですね。

**○坂井委員** 私も全く同感で、何で都庁が消えているのかなと思っていたんですけども、やっぱり景観って積み重ねでいくので、ツートップかスリートップかは分からないけれども、でも事実として都庁があつて駅が出てくるということになっていくので、これを消すというの

はちょっとないのかなというのは思っておりました。

**○事務局（景観・まちづくり課）** はい。分かりました。今のご指摘を踏まえまして、我々の方でももう一度検討して、残す方向で考えたいと思います。ありがとうございます。

**○中島委員長** じゃ、**坂井先生**、お願いします。

**○坂井委員** すみません。じゃ、違うポイントで、見せていただいて、渋谷スカイとか東京スカイツリーとか上のほうから見た写真が何枚もあるんですけども、やっぱり上から見ることもあるし、この前の小委員会のときにはJRの中央線を、ビデオを流して見せてくれましたけれども、もう一つ、私が印象的なのは、成田のほうから帰ってくると高速道路を降りてくるんですよね。あそこでどんとビル群の中に入っていくので、「ああ、新宿に帰ってきた」とよく思うんですけども、だから、やっぱりそういう何か線的なもののところからちらちら見えるところ、もしくは、よくある視点場、つまり公園とか人々が集まる場所からの視点ということで、これから視点場は調査しながらもっと増えていくということだったと思うんですけども、今のところは高いところからの写真がたくさん載っているだけけれども、最終的にはそういう立地、環境のポイントごとに1個ずつ乗っけていくとかいう、そんな選択になっていくのかなというふうには思いました。

以上です。

**○中島委員長** ありがとうございます。

そうですね。景観計画の方に実際に載るのは数枚だから選ぶんでしょうけれども、そのときの選び方がバランスよくというか、そういうことですね。視点場の高さもそうですし、そこにパブリックなもの、その中に一つスカイツリーが入っても全く問題ないと思うんですけども、ちょっとうまく、ほかとの関係も含めて選んでほしいと思うんですよね。でも、スカイツリーとかが入ってきて、大分何をやりたいのかははっきりしたのかなという気はしているのでいいと思うんですけども、いろんな視点場があるということですね。

ほかはいかがでしょうか。ここは大丈夫でしょうか。多分一番大きく変わるところというか、慎重なところですけども、よろしいですかね。さっきの都庁の話と、あと、写真というか、視点場の多様さというか、うまくそれを表すようにしたいということですね。

じゃ、ちょっと一旦次に行きたいと思いますが、次は高さの話。これは②ですけども、景観形成に影響を及ぼす建築物の高さの話は、ここは特に大丈夫ですかね。もし何かあればよろしくをお願いします。

どうぞ、**篠沢先生**。

○篠沢委員 5ページの建築物の新築等、その他の赤字の一番上なんですけれども、いいですか。「広場などの公開空地や歩行者通路など、パブリックスペースを」なら分かるんですけれども、ここ、「光」といきなり来ますよね。これ、何でここで「光」なんですって。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） これは、東京都の景観形成基準と合わせた形で入れておきまして、今赤字になっているところが、夜間照明に関する内容が追加されましたので、その内容を今入れているというところです。

○篠沢委員 なるほど。これ、「光」を抜くと非常にいい文言なんですよ。つまり、公開空地や歩行者通路やパブリックスペースを点から線、面につなげて、周囲の道路と公共空間も含めて連続性、一体感のある空間を整備するならいいんですけれども、ここで「光」と出るとちょっと唐突だなというのと、「光」を言うんだったら、その下の「照明の目的と周辺環境に応じて」というのが先に来るのかなとか、ちょっとこら辺の出方が少し唐突かなと思っています。一方で、今の最初の文章で「光」を抜くと、全体の空間の作り方としては非常にいい文言になると思うので、少し検討していただければいいかなと思います。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 分かりました。

○中島委員長 坂井先生、お願いします。

○坂井委員 すみません。同じ場所なので続けて質問させてください。この赤字が6丸ポツあるんですけれども、全て東京都の景観基準の変更で追記という理解でよろしいですか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） はい、そのとおりでございます。

○坂井委員 ただ、ここは新宿区の項目としては高さについての項目なんですけれども、その高さに、この6つが全部関わると、例えば丸4つ目、「間接照明の使用など光と影を」とありますが、高さの部分でもそうしなさいというふうに東京都が書いているんですね。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 高さというよりは、大規模建築物に関する内容になります。大規模なものなので高さにも影響してくるところで、前段のところでも少し光のまとまりみたいなものを追加させていただいていますけれども、これは大規模建築物に関するものなので、高さとも関係ないものが含まれてはおります。

○坂井委員 今、篠沢先生からご指摘いただいた1ポツ目もそうだし、3ポツ目も景観資源の話とかで、この辺は精査した方がいいんじゃないかというふうなのが意見です。

以上です。

○中島委員長 ありがとうございます。

端的に、ちょっとバランスが悪いですよ。何か照明だけが妙に数倍大事だという感じに見

えちゃうんですけども、何かうまくちょっと表現を、何でしょうね。照明をひとまとめにするのか。

○篠沢委員 ③の次のページには夜間の景観形成がありますもんね。次の大項目で。

○中島委員長 そうですね。だから、今ちょっと、大規模建築ということでここに全部入れ込んであるということだと思んですが、大規模建築物だと、これだと光を大規模建築物の場合、すごく大事だというふうに読めるんですけども。大事なんだけれども、でも、それだけじゃないだろうとか、その話ですよ。

○伊藤委員 伊藤です。

これが、東京都の大規模建築物の新築等に関わる記述の全てなんですか。今、表になっていますよね。新築等に関してはこれが掲載されるということですよ。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） そのとおりです。もともと黒い字で示していますのが現行の総合設計のところでは書かれているもので、ベースとなるのが東京都の景観形成基準で、ほとんど同じような内容が記載されているんですけども、今回、東京都のほうで少し追加になっているものを赤字として追加したというところがございます。

○伊藤委員 なるほど。分かりました。やっぱり照明の記述が大分バランス的に多いなと思っっているんですけど、東京都もバランスが悪いということですか。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） そのまま持ってきているので。

○伊藤委員 そのままということなんですね。何となく、やっぱり中島先生がおっしゃったように精査されたほうがいいのかという、照明が大事というふうに見えてしまうかなと思っただんですが、その辺の都との整合性もあると思うんですけども。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） 分かりました。

○中島委員長 何か、都のものと全く同じじゃなきゃいけない理由ってあるんですけど。横出しとか上乗せというのは全く問題ないんですかね。それとも、それはやってはいけないんですか、ここは。その辺はどうなりました。要するに、東京都のやつと整合性が取れていればいいので、東京都のやつよりももっと、それを包含して、さっきの篠沢先生のご意見じゃないんですが、光だけじゃなくてほかの、そもそもこの1個目とか、本当に大事な話なので、そう書いておけば、当然光でもそういうことをやるでしょうというような、そういう構造にもできるかなというふうに思うんですが、そこがやっぱり何か整合性——整合性というのは、何か全く同一じゃないといけないという意味なんですかね。

○篠沢委員 篠沢です。



ちょっと最初、私のほうから。基本方針の4) にしていただいたんですけども、参考資料の2で見ると、10ページです。若干内容が、まずは「まちの記憶をいかす」と少しかぶるところが、やっぱり文化なので、ちょっと書き分けが、4つの方針の中での関係なんですけれども、少し分かりにくいかなというところがある。かぶっていると思うので、ちょっとそこ、うまく書き分けられたらいいなということと、あと、この基本方針って、たしかエリア別というか、地区別の分析のときの3つの図面と関係しているんですよ、地形の図面とか歴史の図面とか。

考えると、この4つ目の方針というのも、何かエリア別の今回のワーキングというか、あの調査の中で貫いていくようなものになるというのが、計画の体系上というか、調査の体系上は考えられるんですけども、そこらあたり、どうしましょうかねという。何か4つ目の図面みたいなものになるのか、それとも、この4つ目の方針って、何か全然そういうことじゃないのか。ここをいじると、何かそのあたりとの関係が出てくるということを少し懸念しているというよりも、積極的にこれを4つ目に掲示されるのはすごくいいと思っているんですが、ちょっと全体としてそこをどういうふうに反映させましょうかというところが、何か新宿区さんのほうとか、今お考えがあればお伺いしたいなと思いましたが。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。視点の4) に入れるということで、このエリア別ガイドラインのほうも変更しなければならないのか、ちょっとそこら辺は確認していかなきゃいけないなというところはあったんですけども、一応地図上に落としていくような話の中で、この視点4) がそれに該当するのかというところなんですけれども、今おっしゃられたように、確かに「まちの記憶」といったところにも似ていますし、「水とみどり」といった、少し日本的なみどりを表現するような内容ともちょっとかぶってくるようなところで、このエリア別ガイドラインの中で、3つの中にさらにもう一つ絵を追加してと記載するというようなところは、ちょっとあまり考えにくいのかなというふうには個人的に思っていたところでした。

**○中島委員長** そうですよ。確かになかなか難しいんですが、どうでしょうね。記憶の話と、何か改めてちゃんと今読むと、記憶の中でもかなり文化の話はされていて、どちらかというと国際色とか多様性のほうを視点の4) で前面に出すということになるんですかね、書き分けるとすれば。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そうですね。「まちの記憶」とか「みどり」とか、そちらのほうで結構日本らしいみたいところは出てくると思いますので、それとプラスして国際色豊かなという、多様な文化があるよというところを少し視点4) で書かせていた

できればなどは思っています。

**○坂井委員** 坂井ですけれども、私も視点4)、とてもいいなと思っていたんですけれども、今みたいところを聞いていて、視点2)をもう少し追記して、そこに入れ込むというのがあるかと最初に思ったんですけれども、でも、今思っているのは、最初の3つは地形で、そこに「まちの記憶」のところをよく見ると、土地利用とか街路形成って、要するに都市計画のところに、そこにどうかぶってきたか。でも、やっぱり「水とみどり」みたいなものがあるよねと、やっぱり物理的な要素を多分中心に1)、2)、3)で見ていったと。だからガイドラインのほうでもそれをちゃんとエリアごとに見ましようということで、このシート、今見せていただいているシートみたいなものができてきたと思うんですね。

今度の視点、いろんな見方、言い方ができると思うんですけれども、一つの言い方として、いわゆる生活というか、そこで繰り広げられていた社会的な活動とか生活とかということが、その中でどう舞台としてやってきたかというような、だから、今のまでの1)、2)、3)がある土台の中でやってきた、展開されてきたという、そっちの文化みたいな、何かあまりうまく説明できないんですけれども、そういうことで、何かこのガイドラインにまた新たにそのところを入れるというよりは、何か今までの概要で景観は分析して、だけれども、そこに特殊な、特異にそういう生活様式じゃないけれども生活の展開、都市で本当にどんな生活が、社会活動がされているのかというような、何かそういうことで、特殊なところはそれを書くみたいな。だから、全部のエリアにこの4)番を入れるというよりは、それがあるところに視点4)を入れるという感じのやり方もあるかなというふうに思った次第です。以上です。

**○中島委員長** ありがとうございます。

確かに、視点2)で、若干土地利用と関係しているのかと思うんですけれども、「人々の営み」という言葉があるので、その辺がちょっとかぶるんですが、基本的に視点4)はソフトというか、やっぱり物理的な状況の上で展開された人々の活動のことを、それがまた景観のほうに表れているというような、何かそんな関係だと思いますが、確かに視点の2)のほうをもう少し、視点の2)は限定的に見ているところがあるので、その限定性がはっきりすれば、視点4)も違うのかなというのは言えるかなという気もしましたが、なかなか……。どうでしょうか。

**○坂井委員** ですから、ちょっと冒頭申し上げましたけれども、視点2)をさらに追記していく。

**○中島委員長** それもあるのかもしれないですね。記憶や個性を生かすとかとなれば、そも

そも当たり前なんですが。

○**坂井委員** そこに入れ込むというのがオプション1で、オプション2は、今のこの1)、2)、3)、4)について、2)と4)の整理みたいな、もしくは1)、2)、3)と4)の整理みたいな、何かざくっとした整理の仕方を皆さんで共有できればいいんじゃないかというふうに思いました。

○**中島委員長** 伊藤先生、お願いします。

○**伊藤委員** よろしいでしょうか。伊藤です。

もともと「国際色豊かな」と「日本らしい」というのが出てきた経緯というのは、恐らく観光の視点だと思うんですが、そこは特にこだわらなくてよいということであれば、活動というか、営みというのを4)に挙げるのもありかなと思うんですが、その場合、エリマネ的なものとか、そういうものまで入ってくるのかどうかとか、ちょっとその辺をどう整理するのかなど思いながら、物理的なものが3つあって、その上に活動のレイヤーが乗ってきますという意味では、結構多様にもなり得る。多様というか、広げて書き得るなとも思ったので、ちょっと整理の仕方は工夫が必要かなというふうに、こうするといいいよというのがなくて申し訳ないんですが、感想です。

○**中島委員長** そうですね、確かに。

じゃ、続けて**篠沢委員**、お願いいたします。

○**篠沢委員** 僕も感想です。4番目の「多様な文化や地域の個性をいかす」というのは、1)から3)までの視点とはレベルが違うように感じているんですね。1)から3)までが地域の個性をつくっているんだという理解で、それを生かそうよという話。それから、多様な文化。国際色は歴史なんだろうけれども、その2)番に入らない近現代とか、つい最近の国際的な動向というのを、今回計画するに当たって、地域の個性を1)から3)でちゃんと把握しましょうと。それから、現在の動向も意識しつつ、多様な文化というのはそれぞれの地域が混在している、それぞれ存在して関係しているからこそあるんだよということで、視点の4)というのは、その3)までを見た上で、今回の景観計画の方針、これから私たちが取っていく、後ろを見てというか、過去をちゃんと把握した上で、こっち側にありますよというような感じなのかなというふうな理解をしていますという感想です。

○**中島委員長** ありがとうございます。

**坂井先生**のおっしゃったことと似たようなところかなと思うんですけども、上の3つがセットで考えられて、その上でプラスで4)というのがあるんだというふうな、4つが並列という

よりも、3と1に分かれるんじゃないかということですよね。位置づけとしては、もっとしっかりしないといけないですけども、確かにそういう考え方もありそうですね。そうすると、何かマネジメントとか、エリマネみたいな話も、要するにこれから景観を考えるときに、そういうことが大事だよというのを、別にみどりの話とかについても言えることでもあるし、全体として言える話だから、そういう意味では、4) のところで今回の改定の何か一番の、これから、今までとちょっと違う新しい視点をここに集約して1個ぼんと出すというのはありなのかもしれないですね。

ということで、全体の感じとしては今の**篠沢先生**のご意見みたいなところがいいのかなと思うんですが、視点2) を追記するというよりは、やっぱりちょっと切り離して、これからの時代の景観のまさにマネジメントの在り方として、何か視点の4) みたいなものを打ち出すというのが、そういう意識で書いていたら載せていただけるといいし、だとすると、多分後のエリア別のところの構成自体はあまり変わらないというか、3つの基本的な視点はそのまま図で表して、視点の4) のところは、むしろああいうどこでも同じ形式というよりも、やっぱりそれぞれのところの方針のところでは表現していけばいいのかという話になるんじゃないかと思います。ということで、どうでしょうかね。いずれにしても、やっぱり視点4) を追加する意味とか意図というのが問われるので、そこはやっぱりはっきりさせて、基本的にはこの方針でいいと思うんですけども、4つ目ということでもいいと思うんですが、それでやっていくということでどうでしょうか。

八千代さんのほう、大丈夫でしょうか。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** はい、大丈夫です。今、私の中でも、やはり1)、2)、3) と4) はちょっと切り分けた方がいいなと思っていました、考え方として。でするので、ちょっとその関係性が分かるようなことと、また見方と、それから視点4) については、今回の「日本らしい」、「国際色豊かな」というだけじゃなくて、新しい視点というところも踏まえて少し文言を変えていきたいと思います。

**○中島委員長** そうですね。じゃ、そのようによろしくお願いします。表現としても、何か3と1という感じの雰囲気が出ていればいいなと思いました。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ありがとうございます。

**○中島委員長** ということで、ここは何とかそれでいくということにしまして、公共空間のほうはどうでしょうか。

**○坂井委員** 坂井です。

すみません。文言の話なのですが、14ページの左の赤の段落のところに、最後に「地域のシンボルとなるよう」とあるんですけれども、シンボルをどう捉えるかなんですけれども、もう少し身近な居心地のいいということもあると思うので、シンボルとなると何か少し強いというか、これも、モアの4番街の写真があるのでシンボルなのかもしれないですけれども、公開空地、新宿区は多分たくさんあるので、全部が全部シンボルかなという気もしましたので、ちょっとそこ、気になりました。

あと、その右側の(3)「透過性の高い外観デザイン」。全体的にはとてもいいと思うんですけれども、透過性という、透明みたいなところだと思うのですが、ちょっと代案がすぐにはぱっと思いつかないんですけれども、気になったところ2点でした。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** ありがとうございます。

シンボルのところは、確かに今回「誰もが利用しやすい居心地の良い空間」を目指していく中で、ちょっとシンボルというのが合わないかなというのを感じましたので、言葉を検討したいと思います。

それから、透過性のところは、今(3)のところと(5)のところの一番最後にも記載があるんですけれども、もともとはガラス張りとかガラス化とか、そういった表現を使っています、確かにガラスではあるんですけれども、どっちのほうがいいのかなというところで、今「透過性」という言葉を使っていますが、具体的な表現のほうがより分かりやすいということであれば、「ガラス」という言葉を使った方がいいのかもしれないなど。

**○中島委員長** ただ、「透過性」って、ガラスの視線的なところだけじゃなくて、やっぱり開放性というか、実際に、これ一体としてつながるとか、あるいはオープンエアが中に入ってくるとかというのも大事ですよ。「ガラス」って、ちょっと逆に何か限定しちゃうんじゃないでしょうか。

**○事務局（八千代エンジニアリング株式会社）** そう思いました、今「透過性」という言葉に変えたところですよ。

**○中島委員長** 「透過性」というのも、若干視線の話だけに聞こえるからということじゃないですかね。もうちょっと違う表現がありそうだと。並列で「透過性・開放性」とかでもいいかもしれません。

どうぞ、ほかの先生方。

**○伊藤委員** (5)のほうは「透過性」でいいような気がするんですけれども、(3)のほうは「開放性」で意味が違うのかなと。

○中島委員長 そうですね。テラス席で一体でのときは、そういうことですね。

○伊藤委員 はい。(5)のほうは「通りから賑わいを感じられる」なので、「透過性」でもいいかなと思ったんですけども、ちょっと、そういう意図で書かれているのかなと思いました。

○中島委員長 なるほど。

じゃ、今の伊藤先生のご意見、かなりそうだなと思いましたので。(3)のところはやっぱりちょっと違うんだということですね。

○事務局(八千代エンジニアリング株式会社) 分かりました。ありがとうございます。

○中島委員長 ほかにいかがでしょうか。大丈夫でしょうかね。

でも、ここにこういう方針が書かれると、本当に景観協議がやりやすくなるというか、すごく大事なことです。多分一番景観協議の中でよく出てくる話題だと思いますので、しっかり書きたいと思います。

ということで、大丈夫でしょうか。ところで、最終的にいつこれが決定するのかちょっとよく分かっていません。どの段階でフィックスになるのでしょうか。

○事務局(景観・まちづくり課) 新宿区です。

最終的には今年度末に素案という形で出したいと思っておりますが、次回の10月28日の景観まちづくり審議会の中でも中間の報告を入れさせていただいて、ほかの審議会の先生方からもご意見等は頂戴したいと考えております。

○中島委員長 分かりました。ということは、今日議論して、かなりまた方向が決まりましたけれども、まだ何回かあるということですね。

○事務局(景観・まちづくり課) そうですね。

○中島委員長 分かりました。じゃ、それはまたそのときに議論を積み重ねていきたいと思えます。

○事務局(景観・まちづくり課) よろしくお願ひします。

#### 議題4. その他

○中島委員長 これで3番目が終わりましたので、あとはその他ですね。

○事務局(景観・まちづくり課) では、その他で新宿区から、スケジュール等々についてご案内させていただければと思います。

既に調整していただいているスケジュールの再確認です。

まず、7月29日にキックオフミーティングを16時から予定しております。その次が8月24日の18時から中間ミーティング。その次が9月6日の17時から最終報告会というところで、いずれもZoomを用いたオンライン会議で予定をしています。

それから、10月28日10時から審議会ということで予定しておりますが、こちらは対面ということで現在検討しているところです。その審議会に向けて、最終報告会の後、9月中旬頃から10月上旬頃のどこかで、小委員会ができたらと思っておりますので、また後ほど調整させていただけたらと思います。

キックオフミーティングに関連してなんですけれども、今16時からというところで予定しておりますけれども、15時半ぐらいから準備、テスト接続等、区としては対応可能ですが、いかがでしょうか。

○篠沢委員 私、参加させてください。

○事務局（景観・まちづくり課） ありがとうございます。

ほかの先生方はいかがでしょうか。

○中島委員長 じゃ、なるべく早めに入るようにはします。

○事務局（景観・まちづくり課） すみません。では、そういう形で、またメール等でご案内いたしますけれども、よろしく願いいたします。

○篠沢委員 よろしく願いします。

○中島委員長 よろしく願いします。

○事務局（景観・まちづくり課） スケジュールに関しては以上です。

○中島委員長 では、以上、全ての議題が終わりましたので、第3回の小委員会はこれにて終了としたいと思います。よろしいでしょうか。

○篠沢委員 一言感想いいですか。先ほど坂井先生が、海外から戻られたときに、帰ってくると新宿というお話があったんですけども、新宿って、結局いろいろな動線が集中しているターミナルの特性があるじゃないですか。だから、スカイラインに関しても視点場に関しても、何かこの間見せていただいたJR中央線の移動の視点場など、何かそういう要素が本当に新宿らしさというか、「ああ、新宿だな」という感じをすごくうまく表現されていたので、そういうところも参考にさせていただけると非常に親しみが持てると思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局（八千代エンジニアリング株式会社） ありがとうございます。

○中島委員長 ということで、これでよろしいでしょうか。

**○事務局（景観・まちづくり課）** 各先生方、本日も大変活発な議論とご意見をいただきまして本当にありがとうございました。

次回、キックオフミーティングでまたご意見等々いただければと思います。テスト接続も兼ねて、もし先生方、早くそろった段階があれば、中間報告、次のイメージ案についても事前に準備してお話しできればなと今感じているところです。

またアドレス等々については後日送らせていただきますが、Slack等も動いていますので、皆様、先生方のお力添えを何とぞよろしくお願ひししたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

午後0時00分閉会